

東京農工大学科学博物館企画展

川島浩の写真に見る 山の恵みと人々の暮らし

2014年 5月27日(火)～7月26日(土)

入館無料／休館日 日曜・月曜・祝日

開館時間 10時～17時 (入館は16時まで)

会期中イベント

講演会「木の文化を支える林業技術」

6月21日(土) 15:00～16:00

内容: 松本武講師 (東京農工大農学部)

(による解説と討論

申し込み: 不要

主催: 東京農工大学科学博物館
農学部地域生態システム学科

協力: 清水 啓二・川島 環

後援: 一般財団法人

東京農工大学教育研究振興財団

お問い合わせ
東京農工大学科学博物館

TEL: 042-388-7163

東京都小金井市中町 2-24-16

E-mail: kahaku@cc.tuat.ac.jp

http://www.tuat.ac.jp/~museum/



東京農工大学
科学博物館



岩手県旧小繋村・・・そこには人間と自然の共生があった

写真家・川島浩が今から半世紀昔の小繋に取材し、山村の恵みと暮らしを切り撮った。農学部林学科を修めた写真家だからこそ見える美しい自然の景色が、山村に肩を寄せ合って暮らす人々の力強さが、現代の喧騒の中にある我々へ「自然と共に生きる」ということを語りかけてくる。



土が自然にできているし
山でも川でも地球の一部でしかないでしょ
これが誰ものというのは変なんですよ
我々は地球の子供たちなんだから
人間をどうする
生かすも殺すも、それを自由にできるのは
この自然しかないでしょ
地球があって
はじめて我々が活着ているわけだから
(映画「こつなぎー山を巡る百年物語」より)



師との出会いから半世紀余過ぎました・・・
小繋写真の暗室作業は一旦始めると何時間も
終わらないことが続きました。その折の会話の
中で写真の本質、考え方や姿勢を学びました。
人の尊厳は決して侵してはならない。現像液
の中で浮かぶ人物像を指し、この人は凄いな
と、小繋の写真を見るたびに「師の声」「口
調」を思い出します。怒られた事は無かった
けど静かで優しい口調の中にあつた厳しさが
今の僕を支えています。

(写真家・清水啓二)

川島浩プロフィール



- 1925年 東京に生まれる
- 1947年 東京高等農林学校(東京農工大農学部の前身)林学科卒業
- 1952年 メーデー事件撮影、
後にモスクワ・コムソールスカヤプラウダ国際写真コンクール1位
- 1959年 群馬県島小学校(斎藤喜博校長)の写真による個展「未来誕生」、
写真批評家協会新人賞受賞
- 1962年 個展「北方の農民」、岩手県一戸町字小繋の入会権闘争の取材作品
- 1979年 京都府立与謝の海養護学校の写真集「ぼくらはみんな生きている」、
日本写真協会年度賞受賞
- 2001年 日本リアリズム写真集団理事長に就任
- 2003年 没
- 2005年 日本カメラ博物館ギャラリー企画「川島浩作品展『未来誕生』」